

新基地建設反対名護共同センターニュース

「いい加減に、工事を終わりにして！」 2004年からスタンディング続ける渡具知さん一家



キャンドルを灯しスタンディングする人々（左から4人目が智佳子さん）

名護市瀬高区在住の渡具知武清さん（62歳）一家は、2004年11月から実に15年間も荒天以外の毎週土曜日の夕刻に、キャンプ・シュワブゲート前で「ピースキャンダル」と称し、ろうそくを灯し「新基地建設反対！」「大浦湾を守れ！」とスタンディングを続けています。7月28日も応援を得て7人でスタンディングを行いました。武清さんの妻・智佳子さんは、「今日で何回目かって聞かれても、最初こんなに長く続くとは思わなかったもので数えてないんですよ。今回の参院選でも勝ち、県民は民意を何度も示しているのいい加減に政府は工事を終わりにしてほしい。でも、諦めずにこれからもスタンディングを続けます」と語っていました。

県民のたたかいが政府を追い詰めている

荷台がカラのダンプカー何台も入る

反対協の現場スタッフは「ゲート前から入る作業車は一時300台を超える時もあったが、最近は1日かけて100台前後にとどまっている。荷台がカラのダンプカーも何台も入っている。工事が行き詰っているのではないかと話していました。大浦湾の軟弱地盤問題などで政府は工事完成の展望もなく、ただ県民の諦めを誘うための「工事強行」を装っているようです。



炎天下でもゲート前抗議行動 民意顧みず国の違法工事続く

国は参院選で示された民意を顧みることなく辺野古新基地建設工事の作業を強行しています。29日（月）も炎天下の下、座り込み抗議を続けていた県民約30人を午前9時前後から機動隊が排除。石材を積んだダンプカーやコンクリートミキサー車など数十台を基地内に入れました。



参院選後初の「第一土曜県民大行動」の成功を！

とき:8月3日(土)午前11時~12時

ところ:キャンプ・シュワブゲート前テント村

主催:辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議

※高良鉄美新参院議員はじめオール沖縄の国会議員や市町村議員も参加予定です。

※各地域の島ぐるみ会議からバスがでます。最寄りの地方議員などにお尋ねください。

※ゲート前では月曜日から土曜日まで、連日午前8時30分~午後4時まで座り込みを行っています。



写真は参院選「タカラ氏当確」直後の万歳三唱（7月21日）